

よみがえれ長田 人・街・ながた震災資料室展



人・街・ながた 震災資料室だより

人・街・ながた
震災資料室 発行
〒653 神戸市長田区北町3-4-13
電話(078)579-2311
発行人/寿 広文
編集人/武川・福谷

第12号

もくじ

4 3 2 1

ポータル資料室展の報告
自治労記録誌発行
写真・本の寄贈紹介
長田区へこられました

ポータルホテルでの 資料室展 おわる

十二月四日～五日にポータルホテルで自治労の中央委員会が開催されました。震災時には、約二万人が派遣され、避難所運営等さまざまな役割を担っていただきました。お礼の意味もこめ、大会会場の隣で震災資料室展を開催しました。当時来ていただいた方も多く、非常に熱心に見学され、質問・意見もありました。

「派遣先の長楽小学校の校長先生に会いに行った」という渋谷区の方をはじめ、「沖繩から持参したお菓子を仮設に届けたい」「被災地からの情報発信が少ない。地域外では忘れられてしまうのでは」「避難所のファイルや感想文に当時の思い出を」「在日外国人のその後がとても気になる」「長田のケミカル業界は大ダメージを受けたが再建はできるのか」等々でした。

また、まちづくり推進課で管理されている災害管理空間情報システム(DiMIS)作成のきっかけ・経過の説明を受けたり、インターネット・ホームページにも人気が集まりました。他には「関連出版物の多さに驚いた」「非売品の本をよく集めている」「本の目録と簡単な内容紹介を」「資料に接する機会が少ないので各地で開催できないか」などでした。

私たちは、引き続き震災当時の『一次資料』の収集を行い、全国の皆さんの期待に応えていきたいと考えています。

長田区にこられました

◎十月二十四日、小野南中学校一年生の下園さんらが校外学習で当区へ来られました。下園さんらは震災をテーマにして、御蔵・菅原地区を見学し、住民の皆さんから聞き取り調査をした後、当資料室に寄られました。震災の生の声を学校で報告するとのことでした。

◎十二月三日に自治労関東甲地連の皆さん四十人が来庁されました。震災当時、長楽小学校で避難所運営に携わった方々で長田区の復興状況や区画整理・再開発・ケミカル等の進み具合を聞かれた後、四班に分かれて現地見学をされました。



え・内海聖子

◎十二月十七日には、お隣の大阪市港区役所の室さんら四名の訪問がありました。防災計画の一つとして震災当初の初動体制や区役所業務の有り方などについて意見交換を行った後、御蔵・新長田・鷹取東を中心に見学をされました。

前略

過日Bankok在住のスウェーデン人ジャーナリストがこちらを訪れました。時には大変お世話になり、ありがとうございます。数日前にそのLinter氏からハガキが届きまして、大変有意義な取材であったと述べておられました。又、この度は資料室だよりもお送り頂きありがとうございます。個人的には毎日何かと野暮用で忙しくしておりますが、ボランティア通訳二十年の経験から、何か長田の方でお役に立てることがある時は喜んで参加させていただきます。今後ともよろしくお願い致します。生涯学習の市民講師も登録しております。

一九九七・十一・一三

長田区在住

松村 好

平成九年中はお世話になりました。平成十年もがんばりますので、ご協力よろしくお願い致します。

資料名	提供	備考
阪神・淡路大震災関連新聞 原紙保存状況調査	震災記録を残すライブラリ アン・ネットワーク	京阪神地区公共図書館十八館による アンケート結果
社内報 星座 「阪神大震災 特別号」	三ツ星ベルト(株) 労組 細川書記長提供	被災・復旧状況等の報告・写真
阪神・淡路大震災関連資料 リスト	兵庫県立図書館	平成9年10月末日現在・ 図書分類リスト他・避難所資料
神戸市政関連データ集	神戸市水道サービス 公社	阪神大震災から千日の記録 平成7年1月～9年10月
阪神大震災被害状況 写真	東京都新宿区防災課 桑島 宗利提供	震災時の神戸市内の被災状況 写真 170枚
兵庫県南部地震原因等資料	藤本 俊彦	地震の原因等の新聞、テレビ等から 抜粋コピー

貴重な資料を提供をいただき
ありがとうございました

寄贈資料の紹介



寄贈句集「泡水坦坦」から

見掛昌彦

春立つやわれ青春のただ中に

冬うらら山肌に笑む石佛

今年もまた重なる齢木の葉降る

アカシアの花の街角そぞろ雨し

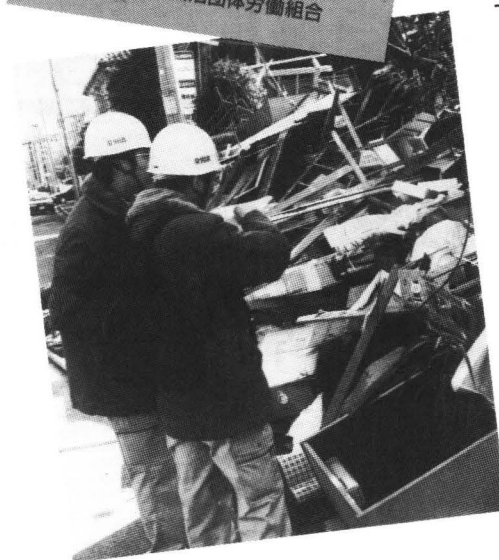
風光る木木すつきりと濁りなし



阪神淡路大震災
自治労復興支援活動の記録

神戸へ！

全日本自治団体労働組合



「阪神・淡路大震災自治労復興支援活動の記録 神戸へ！」は、震災三年を前に自治労が震災当時、全国の自治体から支援に駆けつけた組合員の感想文を集めた本。それぞれの分野で被災地で何ができたのかを記録し、今後の災害支援に活かすことを目的としている。神戸市職長田支部長らが本音で語った座談会も収録している。

延べ約二万二千人の組合員が参加した自治労の復興支援活動は一九九五年一月下旬から三月末まで行なわれた。活動内容は、避難所、配送センター、倒壊危険家屋調査など。交付の大部分を占める感想文は、この本の約一週間のボランティアを経た組合員の生の声をまとめたものである。

「ありがとう」の言葉が
重たく響いた
(二五歳・男)

来る途中、電車から見えてくる風景に驚いた。また、鷹取駅について驚き、学校について驚きと、驚き三味出会った。そのなかで自分は何ができるのか、何をしなければならぬのかと不安がよぎるなか、自己満足かもしれないが、ベストを尽くした満足感はある。と同時にもう少し何とかできないものかというやり残した感もある。そして、もし東京で地震があったら、こういうシステムができるのかという不安もある。まだまだ書き足りないこともある。が、一週間やってこられたのも現地の人の「ありがとう」という言葉があったからである。こんな何気ない言葉が、自分なにも重たく響いたのは、私自身初めてであり、そう何回も経験できるものではないだろう。